

研究者紹介 **私の研究**

動物研究部 脊椎動物研究グループ
かわだ しん いち ろう
川田 伸一郎 研究主幹



『ミズラモグラを新属にしよう』

ミズラモグラはかつて幻のモグラといわれていました。明治初期に横浜に居住した英国人、ヘンリー・プライアが大英自然史博物館に送った標本をタイプとして、同館の脊椎動物学者、アルバート・ギンターが1880年に新種として記載したものです。ところがそれから50年以上、当館の故今泉吉典氏が1949年に再発見するまで記録がありませんでした。

その後ミズラモグラは、アジア大陸に広く分布するアジアモグラ属 (*Euroscaptor*) というグループに入れられていました。歯の数がこの属と同じだから、というのが理由でしたが、実は僕が調査を始めるころまでは、大陸のモグラを採集した人も標本も少なく、ミズラモグラとどれくらい似ているのかはわかっていなかったのです。

僕はこのミズラモグラとアジアのモグラの違いについて知りたくて、いくつかの国でアジアモグラ属の5種を採集し、外部形態や骨の特徴を調べてきました。自分で採集するというのはとても大切で、標本には残らない細かな特徴まで調べることができます。結果、アジアモグラ属が共有する特徴とは全く異なっていることがわかりました。そこで僕は「山の穴掘り屋さん」を意味する新属 *Oreoscaptor* とするよう2016年に記載しました。



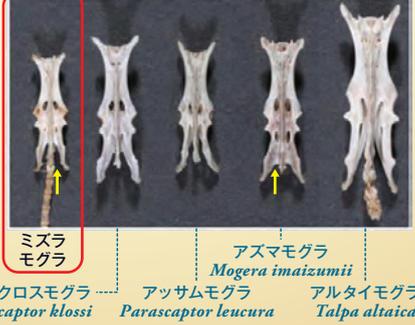
左下の数字は歯の数。黄色の矢印は属の間で歯の減少が起こっている箇所。

ミズラモグラの歯の数は44本。これにより、アジアモグラ属の一種とされてきた。

でも歯の数が同じでも別グループでいいじゃない？

いろんなモグラを捕まえて比べてみた。ミズラモグラはアジアモグラ属の種と比較して、尾が長い。また吻部の形態が幅広く独特。

このような特徴は乾燥標本だとわからないんだよね。



骨盤の形も比べてみる。ミズラモグラの骨盤は背面に2つの孔を残して、広く癒合するタイプで、アズマモグラに似るが、癒合域(矢印部分参照)は狭い。

やっぱりミズラモグラは既知のどの属とも違うようだ。

研究者に聞いてみました!

1) 自身の研究内容と社会、一般との接点は自分の研究というよりも、僕が集めた標本が多くの方の研究に利用され、また当館の展示に使われて、多くの方に満足してもらえることかな。僕の存在意義は研究者としてよりも標本収集者としての方が高いと思っています。

2) 研究以外の趣味や熱中していることはありますか
休日を子供たちと遊ぶのが楽しいです。

3) 研究する上で一番大事だと思うことは何ですか
情熱。

4) 今の職業に就いていなければ何をしていますか
町の動物好きおじさん。

